



嗅覚減退に対する鍼治療の1症例

明治国際医療大学 はり・きゅう学講座 鶴 浩幸、角谷英治

風邪をひいた後に嗅覚の減退が持続した症例の鍼治療について報告する。60歳・女性、1ヶ月半前に風邪をひき、嗅覚が消失した。耳鼻科を受診したが診断名は告げられず、薬物治療が行われたがあまり効果はなかった。風邪が治っても嗅覚減退が回復せず、オーデコロンの臭いが少し分かる程度であり、他の臭いは分からない。投薬：ビタミンB₁₂製剤・アレルギー性鼻炎治療薬、所見：僧帽筋・肩甲挙筋・腰部脊柱起立筋に過緊張と圧痛あり。(東洋医学的所見)舌診：胖大・淡紅舌・薄白苔、問診：強い精神的ストレスがあり、風邪をよくひく、手足が冷える、腰痛と不眠がある。切診：三陰交、孔最、合谷、風池に圧痛著明、上星、列缺、肺俞に喜按。脈診：沈・緩、臟腑弁証：肺気虚弱。鍼治療は直径0.16mmの鍼を用い、以下の経穴に約4mm刺入後に10分間の置鍼術を行った。約2ヶ月の期間に計6回の治療を行った。治療は①通竅：上星・迎香・合谷・風池・肺俞・列缺、②清頭目：脳戸、③腰部の筋緊張緩和・筋血流改善：腎俞・大腸俞などに行った。症状はVAS(visual analogue scale)にて評価し、日常生活において、0mm：臭いを充分に感じる、100mm：臭いを全く感じない、とした。VASは90mmから40mmへと改善し、「様々な臭いを感じるようになった。」とのコメントが患者から得られた。VASの改善などから、本症例に対する鍼治療は有効であったことが示唆された。

目的

風邪により嗅覚の減退が生じ、風邪が治った後も嗅覚減退が持続した症例の鍼治療について報告する。

症例

患者：60才、女性
初診日：20XX年6月3日
主訴：嗅覚減退
随伴症状：特になし。
現病歴：同年4月20日に風邪をひき、それから嗅覚が消失した。

近くの耳鼻咽喉科を受診したが、診断名は告げられなかった。耳鼻科にて薬を処方されたが、あまり効果なし。現在は、オーデコロンの臭いが少し分かる程度であり、他の臭いは分からない。

個人歴：特記事項なし。
既往歴：10年前より慢性鼻炎、アレルギー(-)
投薬：メチコパール(ビタミンB₁₂製剤)、アラミスト点鼻薬(アレルギー性鼻炎治療薬)

所見：身長：156cm、体重：56kg、肩甲挙筋部・僧帽筋部・菱形筋部・腰部脊柱起立筋部に筋の過緊張と圧痛あり。

東洋医学的所見

望診(舌診)：はんだ、淡紅舌、薄白苔
問診：強い精神的ストレスがある。風邪をひきやすい。手足が冷える。肩がこる。あまり強くないが、腰痛がある。不眠傾向。
切診：三陰交・孔最・合谷・風池に圧痛、上星・百会・列欠・肺俞に喜按。
脈診：沈・緩
臟腑弁証：肺気虚弱証

鍼治療の方法

鍼治療は直径0.16mmのステンレス製鍼灸針を用い、以下の経穴に約4mmの刺入後に10分間の置鍼術を行った。約2ヶ月の鍼治療期間中に計6回の鍼治療を行った。

- ① **弁証論治に基づく治療**：通竅を治則とし、上星(宣肺通竅・清熱)、迎香(散風清熱・宣通鼻竅)、合谷(疏風解表・四総穴)、風池(疏風解表)、肺俞(宣肺・止咳)、列缺(宣肺疏風)に刺鍼した。
- ② **清頭目**を目的として、脳戸に刺鍼した。
- ③ **腰部の筋緊張緩和、筋血流改善**を目的として、腎俞、大腸俞に刺鍼した。

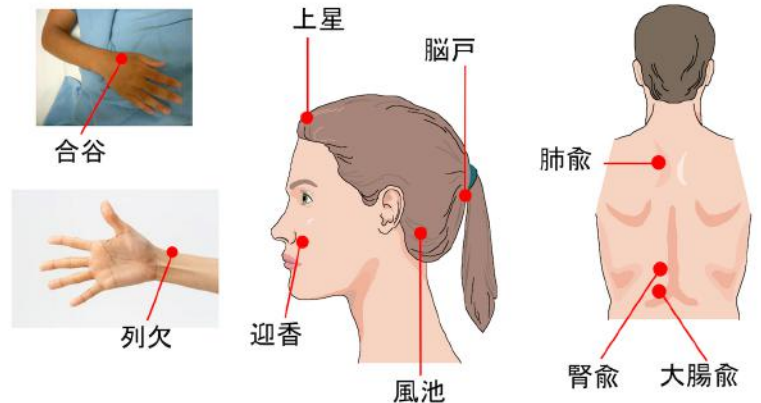
自覚症状の評価

・長さ100mmのVisual Analogue Scale (VAS)を使用。

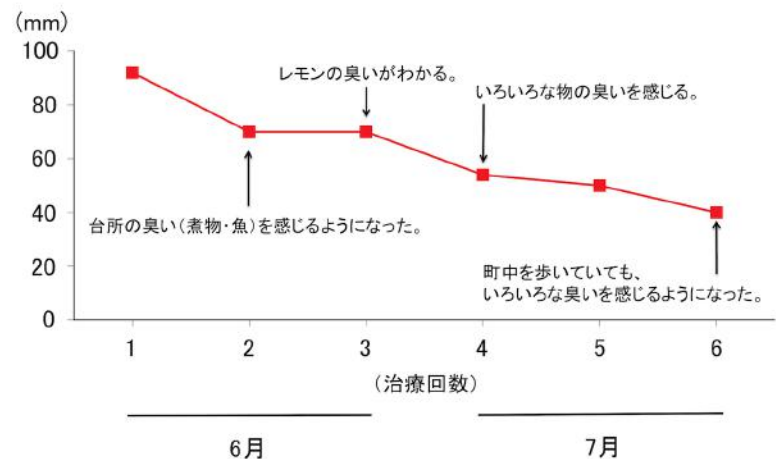
症状なし
(臭いを充分に感じる)

これまでに経験した最大の症状の強さ
(臭いを全く感じない)

鍼治療部位



結果1. VASの経時的変化



考察・結語

VASの改善や患者のコメントなどから、本症例における嗅覚減退に対して鍼治療が有効であったことが示唆された。